

2023年
夏号

編集・発行 広報委員会

はやしのはなし

理念 Heartful & Healing Hospital ~ハートフル アンド ヒーリング ホスピタルとして~
私たちは常に優しさと思いやりの心をもち、良質で信頼される医療の実践により心から癒される病院であることを目指します。

はやしの写真コンテスト2023

テーマは「感謝の気持ちを伝える」

当院職員より26の応募!



理事長賞

タイトル：「One Team」
仕事の事はもちろん、プライベートな事でも、なんでも相談に乗ってくれて、一緒に喜んだり、悲しんだりしてくれる仲間がいるこの環境に感謝です。1人では難しい事も、誰かがそばにいてくれる、話を聞いてくれる事で、いろいろな事を頑張れる気がします。この写真コンテストを通して、そばにいてくれる人、「チーム」の大切さを改めて感じることができました。
氏名：上小園 ななみ (リハビリテーション課)



審査員) 花田 博実 理事長

写真のマスクの奥に見える笑顔や3人が寄り添って同じポーズをとっている姿、またタイトルのOne Teamも、とても素敵だな〜と、今回は直感で選びました。直感で選んだあとにコメントを読んでみましたが、まさに今年度のスローガンでもある「連携・協働」にピッタリの内容が書かれていて、さらに「ステキ〜」とうれしくなりました。コメントを読みながら「連携・協働を意識して行動しよう」というのは、相手への感謝の気持ちを意識して、それを素直に伝えるという行動がベースにあって、その上で「チーム」がひとつになっていくんだろうとあらためて感じました。

院長賞



タイトル：「大好きなあなたへ」
妊娠中お腹が痛くなり病院に駆け込んで麻酔から目が覚めたら産まれていたあなたの顔を見た時の感動は今でも忘れられません。小さい頃は私の後をついて歩いていましたが、妹の遊び相手をしてくれたり、「僕、1人で出来るよ!」「僕が荷物持つよ!」と前を歩く逞しく優しい背中を見てとても誇らしい。これからいろんな経験をしていきどんな風に成長していくかとても楽しみです。いつもありがとう。これから1日1日を共に歩いていこうね。
氏名：盛 菜月 (デイケア)

審査員) 美園 俊明 院長

この歳の頃まで子供は究極のペットである。その笑顔を見れば苦難のすべてを忘れ、多くの喜びをもたらす。だが、たった1枚の嬉しさの裏紙には、それを越える数枚の心配事と不安が常に付きまとうと記されているのだ。「無事に育ってくれている」、これを感謝と言わず何と言おう。あなたは、この子が二十歳を超えて憎らしくなっても、同じ感謝の心を持ち続けていられるだろうか。後ろ姿が母に父に問いかけている写真である。

はやしのスペシャルごはん

当院の調理スタッフが心を込めて作る行事食をご紹介します♪

7月7日七夕

七夕にはそうめんが定番となっていますが、その由来は、中国から伝わった習わしで「素餅」という小麦粉のお菓子を7月7日に食べると無病息災で過ごせるというもの。その素餅がやがて作り方や形を変えて「そうめん」へ変化し、七夕にはそうめんを食べるようになったとされています。

当院では七夕の行事食を企画いたしましたのでご紹介します。

まず、定番の【七夕そうめん】

『そうめんは天の川に』『薄焼き卵の星飾り』『きゅうりの輪飾り』『長芋・人参・黄パプリカ・ハムは短冊』『オクラと水菜は笹の葉』をイメージしました。

【魚と夏野菜の天ぷら盛】には、南瓜や茄子、にがうり、ズッキーニを…

【冬瓜とえび団子の餡かけ】は、器に型取った冬瓜にえび団子と枝豆を盛り、とろりとした餡をかけた優しくあっさりした一品です。

どれも夏野菜をふんだんに取り入れた、初夏を感じさせるメニューとなりました。

デザートには、七夕の夜空にキラキラ輝く天の川をイメージしたゼリーをご用意しました。カルピスとブルーハワイの二層ゼリーにメロン・パイン・黄桃・すいかを星型や丸にくり抜いて、見た目も爽やかですっきりとした味わいに仕上げました。(※一品一品、全て調理スタッフの手作業です!)

暑い夏に、見た目でも涼を感じて頂けるメニューになりました。皆様にとって、お食事の時間が入院中のホッとするひと時になっていただければ…と願いを込めて調理スタッフ・栄養士一丸となってご用意しました。鹿児島では、旧暦の8月7日が七夕とされています。短冊に願い事を書いてみてはいかがでしょうか。

～みなさまの願い事が叶いますように～

(記事担当 栄養課 狩元 悠一郎)

お品書き
*七夕そうめん
*夏野菜の天ぷら盛り
*冬瓜とエビ団子の餡かけ
*天野川きらきらゼリー

はやしの夏散歩

長い雨が過ぎ、空の青さが夏の訪れを告げる時期となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。デイケアでは、七夕飾り作りと夏祭りを開催しました🎊

一階玄関と二階エレベーター前に飾っている七夕はデイケアの皆様が作ってくださっています!今年も色とりどりの飾りが風に揺られてキラキラと輝いています🎊

夏といえば夏祭り🎊金魚すくいとヨーヨー釣りをしました!

たくさんすくうぞ!と金魚が跳ねるほどひよいひよいとすくい、好きなヨーヨーを手付けて小さい頃は思い出し、子供の頃に帰ったひと時でした🎊

おやつはあずきパーとバニラアイスを選ばれてべろりと召し上がっています🎊

※コロナ感染対策のもと実施しています

(記事担当
デイケア 盛)





山口写真館

当院職員の山口が現場で撮影した季節を感じる景色やお祭りなどを記しています。

今回は、初夏の行事を紹介します。
日置市日吉町日置八幡神社で「せつぺとべ」が行われました。
「せつぺとべ」とは、鹿児島弁で「精一杯、跳べ」という意味です。
白装束の若者たちが田んぼの中で円陣を組み、酒を飲み、歌を歌いながら、勢いよく飛び跳ね、五穀豊穡を祈願しました。



始良市加治木町のくも合戦が4年ぶりに行われました。
雌のコガネグモが長さ60cmの棒上で糸を絡ませ、熱戦を繰り広げました。

鹿児島神宮の御田植祭が雨の降りしきる中に行われました。
田植え歌が響く中、すげ傘に脚絆、雨がっぱ姿の早乙女、早男約40人が豊作を祈り斎田に稲苗を手植えました。



曾我どんの傘焼き (2022年7月撮影)
薩摩藩独自の教育方法でもあった「郷中(ごじゅう)教育」の一環として始まりました。
「曾我どんの傘焼き」は鹿児島三大行事の一つでもあります。鎌倉時代に曾我兄弟が父の仇討ちを遂げる際に松明の代わりに雨傘を燃やして夜討したという故事に習い行われています。

コーナー担当
放射線技師 山口



所属長紹介



検査課・放射線課
課長

山口 敏弘

～今回は検査課・放射線課 課長をご紹介します～

当院広報誌でおなじみの山口写真館担当者です

Q1: 放射線技師になろうと思ったきっかけは?

A: 父親の手術の際、病変を見つけるために努力してもらった医師、診療放射線技師の姿をみてなろうと思いました。

Q2: カメラ以外での趣味は何ですか?

A: 野菜作り、釣り、山登り。

Q3: 休みの日は何をして過ごしていますか?

A: 写真撮影。何もない時は野菜作りをしています。

Q4: もし、放射線技師以外だったら何の仕事をしていますか?

A: 建築関係の仕事ですかね…

Q5: 若い頃のあだ名は何ですか?

A: エンディー (当時流行していたバンドメンバー「エンディ山口」が由来) と呼ばれていました。

スタッフからみた山口課長

頼りがいがある

多才

物知り

勉強熱心

優しい



検査・放射線課は臨床検査技師2名、診療放射線技師2名で患者様の検査を受け持っています。臨床検査技師は生理学検査、血液検査、PCR検査、診療放射線技師は、胸部、腹部撮影、CT、MRI検査等を行っています。
検査となれば、誰もが不安や心配で一杯です。安全で安心して検査を受けて頂けるように日々心がけております。